

株式会社椿本チエイン

2024年3月期 第2四半期決算報告

<アジェンダ>

説明内容	説明者	予定時間
・ 2024年3月期 第2四半期決算報告 ・ トピックス	代表取締役社長 木村 隆利	35分
・ 質疑応答	社長、各事業統括、 財務担当役員	25分

2023年11月17日

2024年3月期 第2四半期連結業績報告

1. 24年3月期2Q比¹⁾- 連結決算ハイライト

3

- チェーン事業の好調、円安効果により増収増益。
ただし、マテハン事業の損失計上等により営業利益率は低下。

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	予想比（5月11日公表）	
	第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値	増減率
売 上 高	118,933	128,760	8.3%	125,000	3.0%
営 業 利 益	8,375	8,622	2.9%	7,600	13.4%
営業利益率	7.0%	6.7%		6.1%	
経 常 利 益	9,889	10,364	4.8%	8,300	24.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,756	7,300	8.1%	5,800	25.9%
1株当たり四半期純利益	182.49円	199.14円		156.62円	—
（為替レート 1USD）	134.04円	141.06円		125.00円	—
（為替レート 1EUR）	138.77円	153.46円		130.00円	—
（為替レート 1RMB）	18.96円	19.45円		18.34円	—

2. 24年3月期2Qレビュー- 事業セグメント別業績

4

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	予想比 (5月11日公表)	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値	増減率
チェーン	売上高 ^{※注1}	43,609	46,908	7.6%	43,000	9.1%
	営業利益	6,285	7,916	26.0%	5,800	36.5%
	営業利益率	14.4%	16.9%		13.5%	
モーション コントロール	売上高 ^{※注1}	10,886	11,165	2.6%	11,000	1.5%
	営業利益	745	233	▲ 68.6%	500	▲ 53.4%
	営業利益率	6.8%	2.1%		4.5%	
モビリティ	売上高 ^{※注1}	36,429	40,591	11.4%	39,000	4.1%
	営業利益	2,375	3,205	34.9%	2,200	45.7%
	営業利益率	6.5%	7.9%		5.6%	
マテハン	売上高 ^{※注1}	28,066	30,042	7.0%	32,000	▲ 6.1%
	営業利益	▲ 74	▲ 1,637	—	100	—
	営業利益率	—	—		0.3%	
その他 ^{※注2}	売上高 ^{※注1}	1,477	1,707	15.5%	1,000	70.7%
	営業利益	▲ 265	▲ 433	—	▲ 400	—
	営業利益率	—	—		—	

※1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※2：「その他」は、報告セグメントではありません。

3. 24年3月期2Qレビュー- 所在地別業績

5

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期	前年同期比
		第2Q実績	第2Q実績	増減率
米 州	売上高 ^{※注}	37,731	43,818	16.1%
	営業利益	1,535	2,660	73.3%
	営業利益率	4.1%	6.1%	
欧 州	売上高 ^{※注}	14,699	17,112	16.4%
	営業利益	644	1,377	113.8%
	営業利益率	4.4%	8.0%	
環インド洋	売上高 ^{※注}	9,678	10,511	8.6%
	営業利益	1,143	1,342	17.4%
	営業利益率	11.8%	12.8%	
中 国	売上高 ^{※注}	10,619	9,280	▲ 12.6%
	営業利益	599	▲ 297	—
	営業利益率	5.6%	—	
韓国・台湾	売上高 ^{※注}	5,362	5,768	7.6%
	営業利益	184	86	▲ 53.0%
	営業利益率	3.4%	1.5%	
日 本	売上高 ^{※注}	58,723	59,565	1.4%
	営業利益	3,629	2,197	▲ 39.5%
	営業利益率	6.2%	3.7%	

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

<主な実績レート>

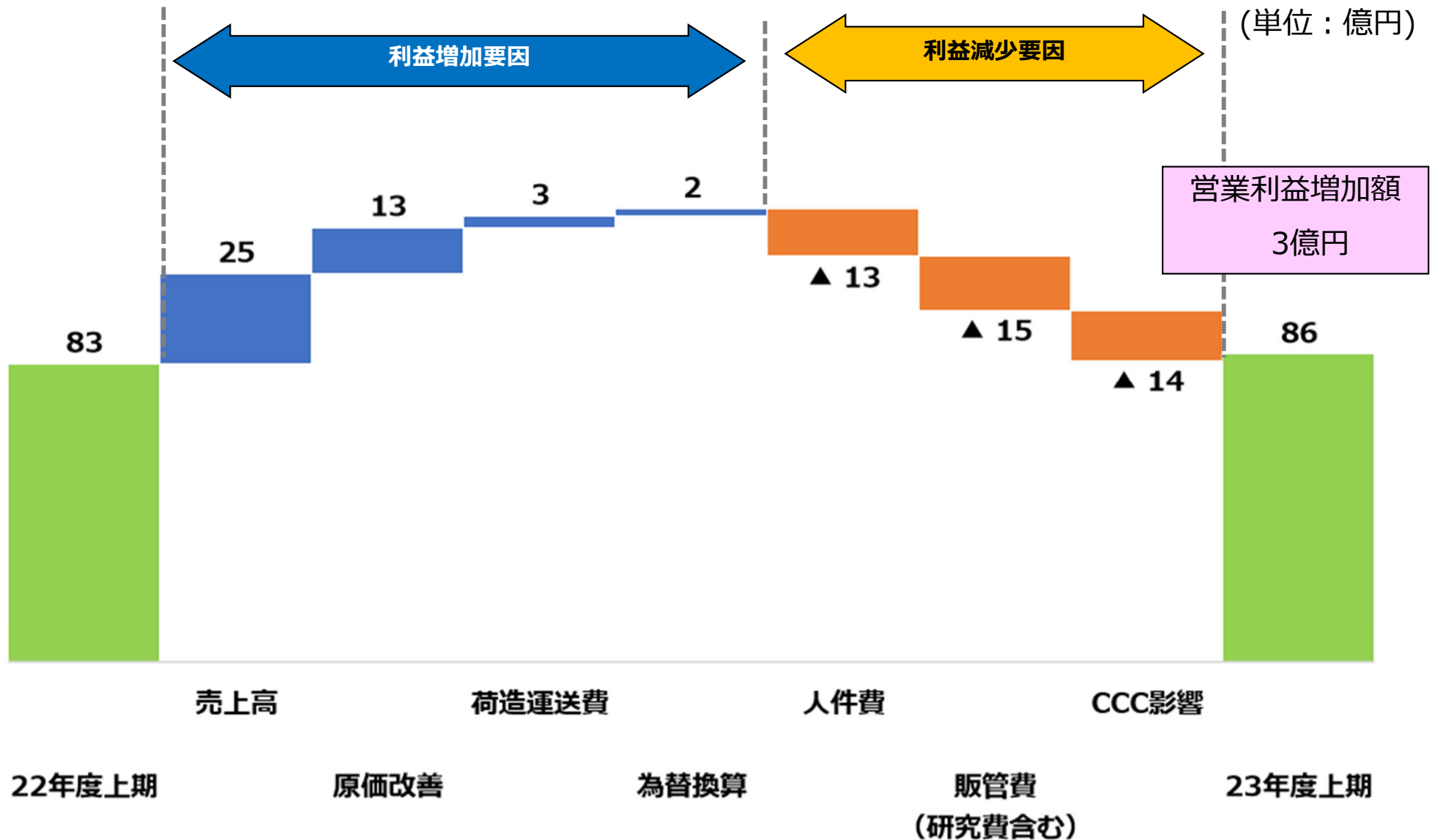
(単位：円)

	USD	EUR	CAD	AUD	THB	TWD	RMB	KRW	MXN
23/3上期	134.04	138.77	103.85	93.60	3.65	4.47	18.96	0.10	6.08
24/3上期	141.06	153.46	105.14	93.25	3.95	4.51	19.45	0.10	7.45

4. 24年3月期2Q比¹⁾- 連結営業利益増減要因分析

6

■ 2023年3月期上期実績 vs 2024年3月期上期実績



5. 24年3月期 2Qレビュー- 事業セグメント別業績

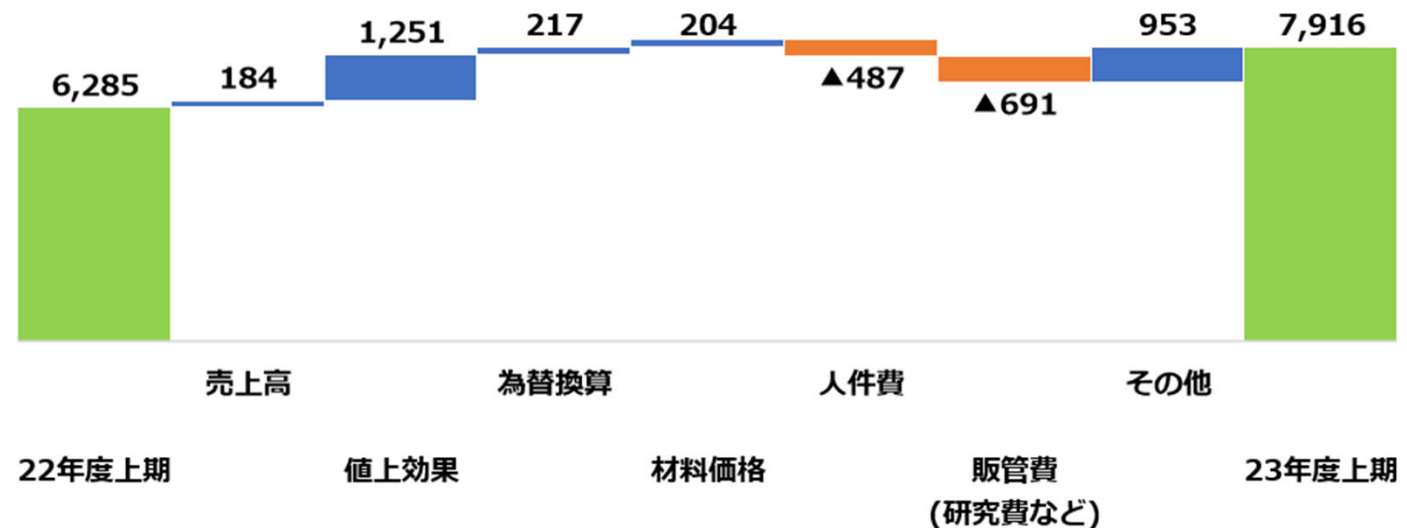
〈チェーン〉 7

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	業績予想比	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値(5/11)	増減率
チェーン	売上高※注1	43,609	46,908	7.6%	43,000	9.1%
	営業利益	6,285	7,916	26.0%	5,800	36.5%
	営業利益率	14.4%	16.9%		13.5%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年同期比〉

- ・日本、米州、欧州、中国、環インド洋における販売好調により増収。人件費などコスト増加はあるものの生産性改善に注力し増益。

〈5/11公表予想比〉

- ・米国および環インド洋での販売好調により増収・増益。

5. 24年3月期 2Qレビュー- 事業セグメント別業績

〈MC〉

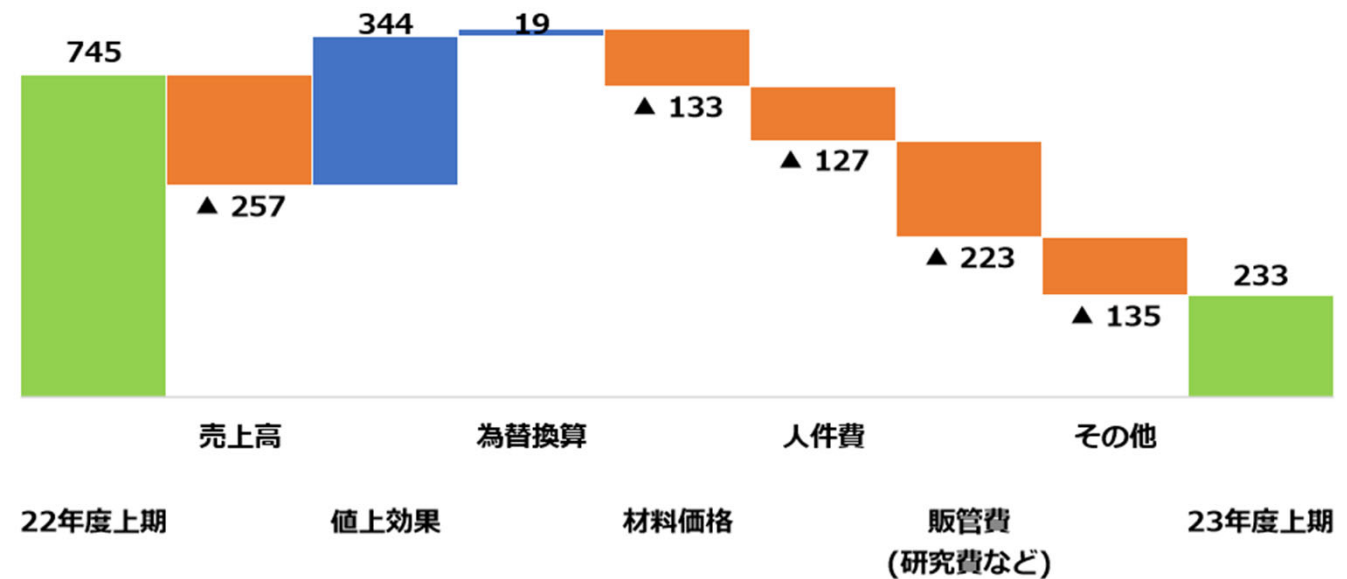
8

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	業績予想比	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
モーション コントロール	売上高 ^{※注1}	10,886	11,165	2.6%	11,000	1.5%
	営業利益	745	233	▲68.6%	500	▲53.4%
	営業利益率	6.8%	2.1%		4.5%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年同期比〉

- ・米州や中国、環インド洋は販売が増加したことにより増収も、在庫調整の影響等により日本での販売が減少したことにより減益。

〈5/11公表予想比〉

- ・円安により増収も、日本での販売が減少したこと等により、減益。

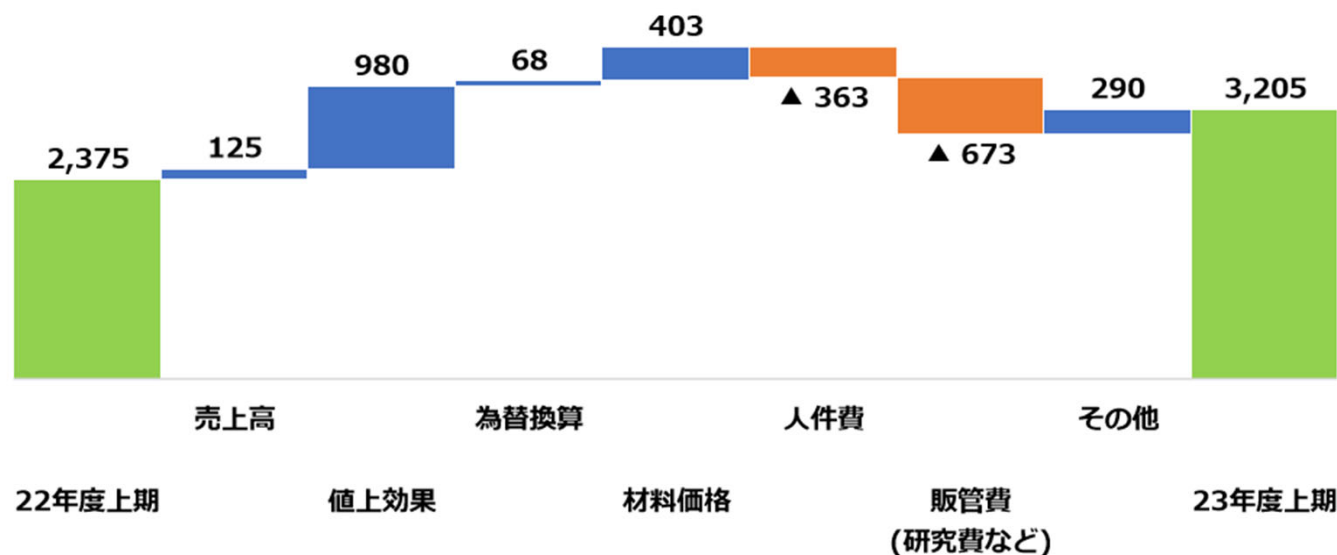
5. 24年3月期 2Qレビュー- 事業セグメント別業績

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	業績予想比	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
モビリティ	売上高※注1	36,429	40,591	11.4%	39,000	4.1%
	営業利益	2,375	3,205	34.9%	2,200	45.7%
	営業利益率	6.5%	7.9%		5.6%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年同期比〉

- ・自動車生産台数の回復に伴い、日本、米州、環インド洋、韓国などの拠点の販売が増加したことにより、増収・増益。

〈5/11公表予想比〉

- ・前年同期比と同様、自動車生産台数の回復により増収・増益。

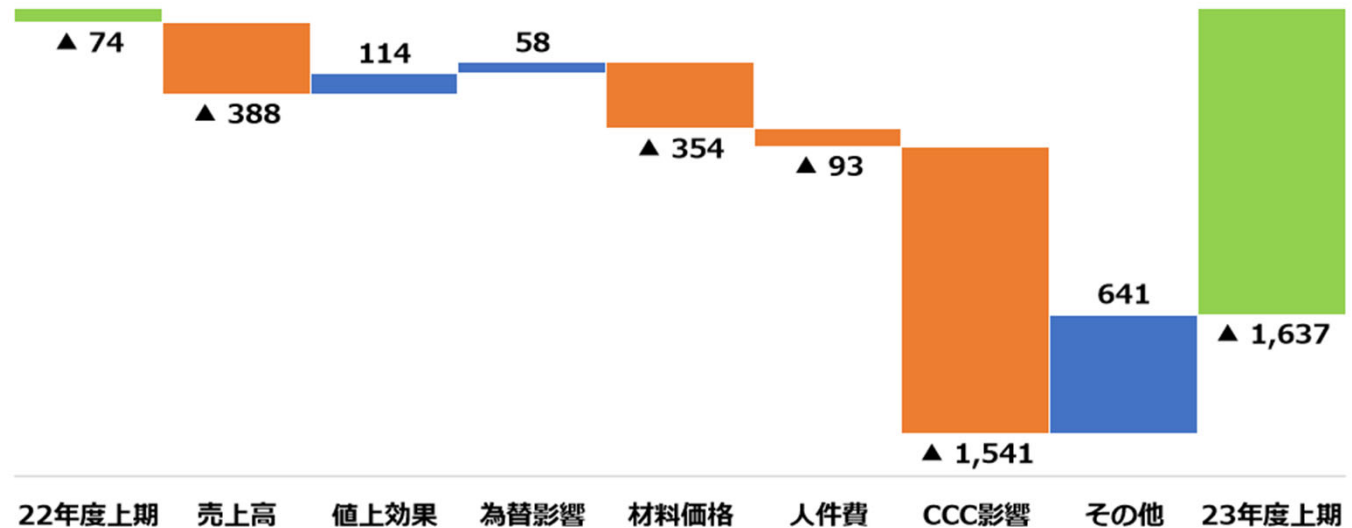
5. 24年3月期 2Qレビュー- 事業セグメント別業績 〈マテハン〉 10

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	業績予想比	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
マテハン	売上高※注1	28,066	30,042	7.0%	32,000	▲6.1%
	営業利益	▲74	▲1,637	—	100	—
	営業利益率	—	—		0.3%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年同期比〉

- ・日本での物流業界向けや自動車業界向けシステムの販売減少はあるものの、米州・欧州における金属切屑搬送・クーラント処理装置の販売増加により増収。米国子会社の損失計上により収益性悪化。

〈5/11公表予想比〉

- ・日本での物流業界向けの減少等により減収・減益。

2024年3月期 連結業績予想

6. 24年3月期 通期業績予想

12

- チェーン事業の上期好調、円安効果により売上高は上方修正も、マテハン事業の損失計上等により営業利益は下方修正。

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期			前期比
	通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率
売上高	251,574	128,760	134,240	263,000	4.5%
営業利益	18,985	8,622	7,478	16,100	▲15.2%
営業利益率	7.5%	6.7%	5.6%	6.1%	
経常利益	20,958	10,364	8,836	19,200	▲8.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,742	7,300	6,500	13,800	0.4%
1株当たり当期純利益	371.12円	199.14円	181.46円	380.60円	—
(為替レート 1USD)	135.50円	141.06円	140.00円	140.53円	—
(為替レート 1EUR)	141.00円	153.46円	150.00円	151.73円	—
(為替レート 1RMB)	19.50円	19.45円	19.62円	19.59円	—

7. 24年3月期 事業セグメント別業績予想

13

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期			前期比
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率
チェーン	売上高 ^{※注1}	90,096	46,908	45,092	92,000	2.1%
	営業利益	13,687	7,916	5,884	13,800	0.8%
	営業利益率	15.2%	16.9%	13.0%	15.0%	
モーション コントロール	売上高 ^{※注1}	23,316	11,165	10,835	22,000	▲5.6%
	営業利益	1,710	233	▲ 233	0	—
	営業利益率	7.3%	2.1%	—	0.0%	
モビリティ	売上高 ^{※注1}	77,275	40,591	43,409	84,000	8.7%
	営業利益	6,376	3,205	3,395	6,600	3.5%
	営業利益率	8.3%	7.9%	7.8%	7.9%	
マテハン	売上高 ^{※注1}	60,973	30,042	34,958	65,000	6.6%
	営業利益	▲ 888	▲ 1,637	▲ 163	▲ 1,800	—
	営業利益率	—	—	—	—	
その他 ^{※注2}	売上高 ^{※注1}	3,200	1,707	1,293	3,000	▲6.3%
	営業利益	▲ 534	▲ 433	▲ 667	▲ 1,100	—
	営業利益率	—	—	—	—	

※1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

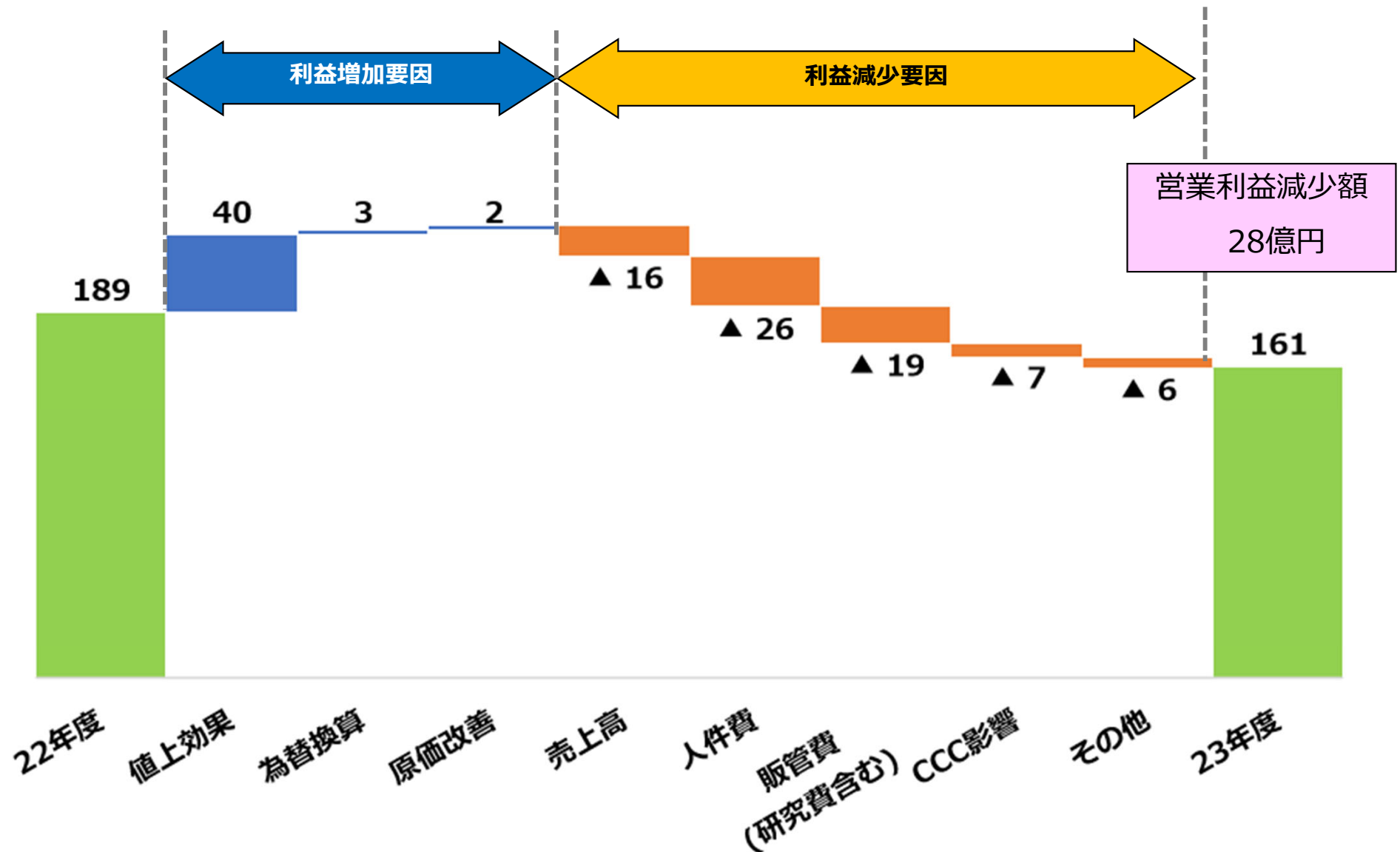
※2：「その他」は、報告セグメントではありません。

8. 24年3月期 連結営業利益増減要因分析

14

■ 2023年3月期実績 vs 2024年3月期予想

(単位：億円)



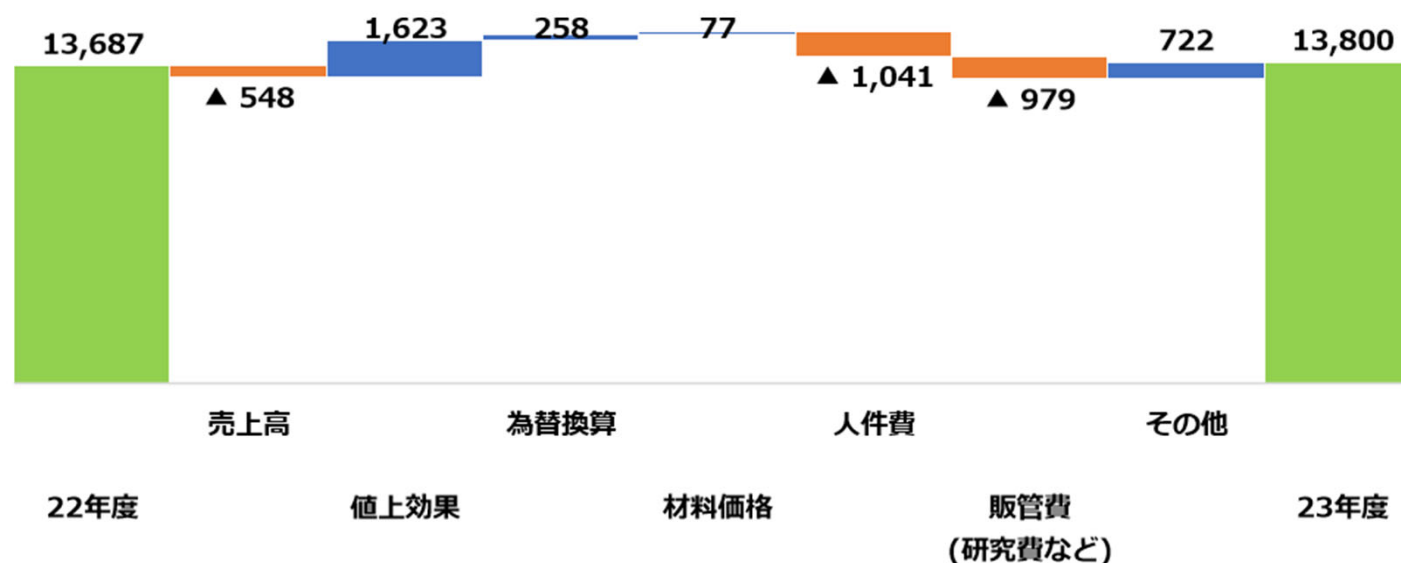
9. 24年3月期 事業セグメント別業績予想

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期				5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	前期比	金額	修正率
チェーン	売上高 ^{※注1}	90,096	46,908	45,092	92,000	2.1%	86,000	7.0%
	営業利益	13,687	7,916	5,884	13,800	0.8%	11,800	16.9%
	営業利益率	15.2%	16.9%	13.0%	15.0%		13.7%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前期比〉

- ・ 足下は受注が減速傾向も、上期までの販売好調、円安の進行などにより増収・増益を見込む。

〈5/11公表予想比〉

- ・ 前期比と同様、上期までの好調、円安の進行等により売上高、利益とも上方修正。

9. 24年3月期 事業セグメント別業績予想

〈MC〉

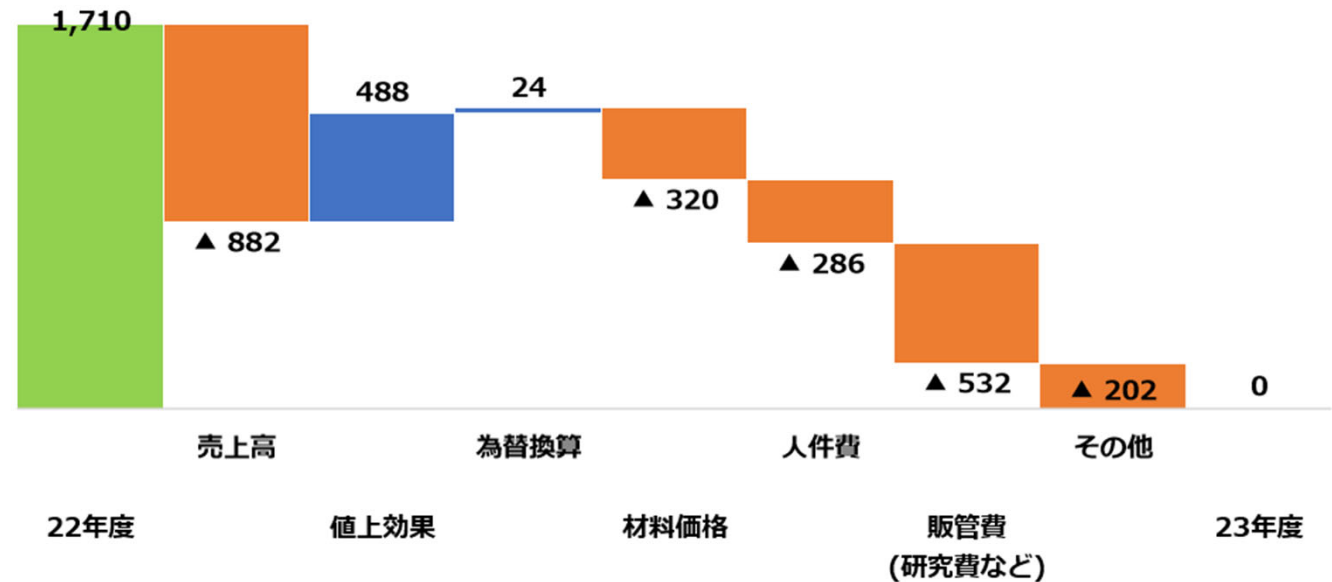
16

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期				5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	前期比	金額	修正率
モーション コントロール	売上高※注1	23,316	11,165	10,835	22,000	▲5.6%	24,000	▲8.3%
	営業利益	1,710	233	▲233	0	—	1,500	—
	営業利益率	7.3%	2.1%	—	0.0%		6.3%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前期比〉

- ・特に日本国内における受注環境悪化により、減収・減益。

〈5/11公表予想比〉

- ・前期比と同様、日本国内における受注低迷長期化により、売上高、利益とも下方修正。

9. 24年3月期 事業セグメント別業績予想

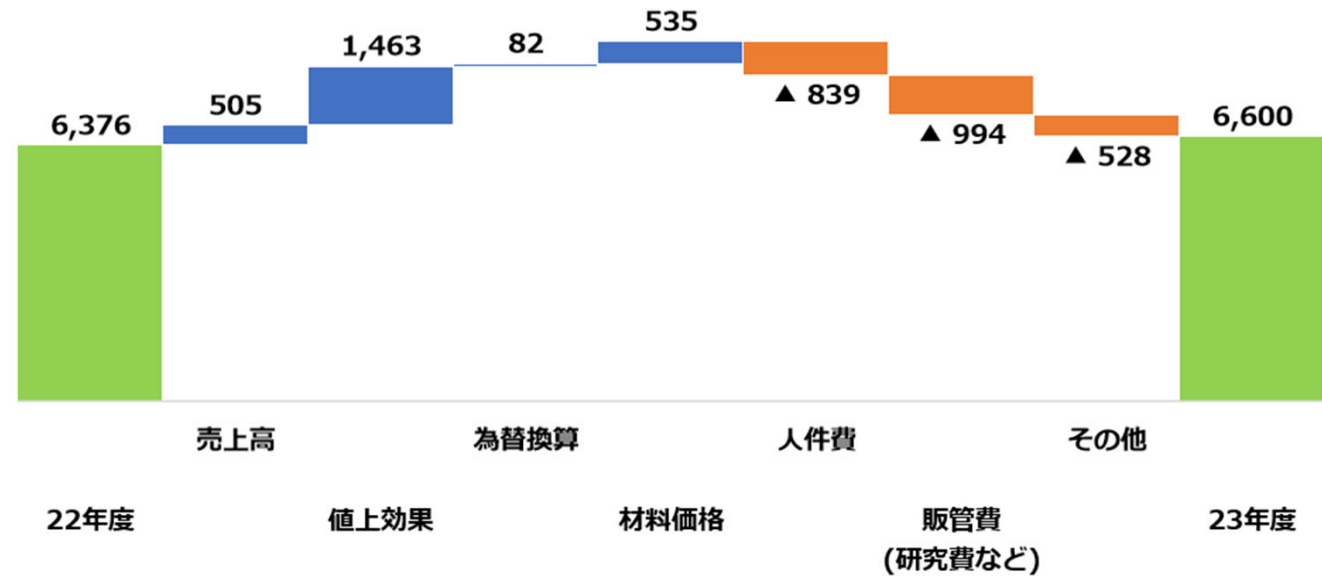
〈モビリティ〉 17

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期				5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	前期比	金額	修正率
モビリティ	売上高 ^{※注1}	77,275	40,591	43,409	84,000	8.7%	80,000	5.0%
	営業利益	6,376	3,205	3,395	6,600	3.5%	6,900	▲4.3%
	営業利益率	8.3%	7.9%	7.8%	7.9%		8.6%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前期比〉

- ・自動車生産台数が増加すると想定。増収・増益を見込む。

〈5/11公表予想比〉

- ・自動車生産台数の増加、円安により売上高は上方修正も、中国の回復遅れ等により利益は下方修正。

9. 24年3月期 事業セグメント別業績予想 〈マテハン〉

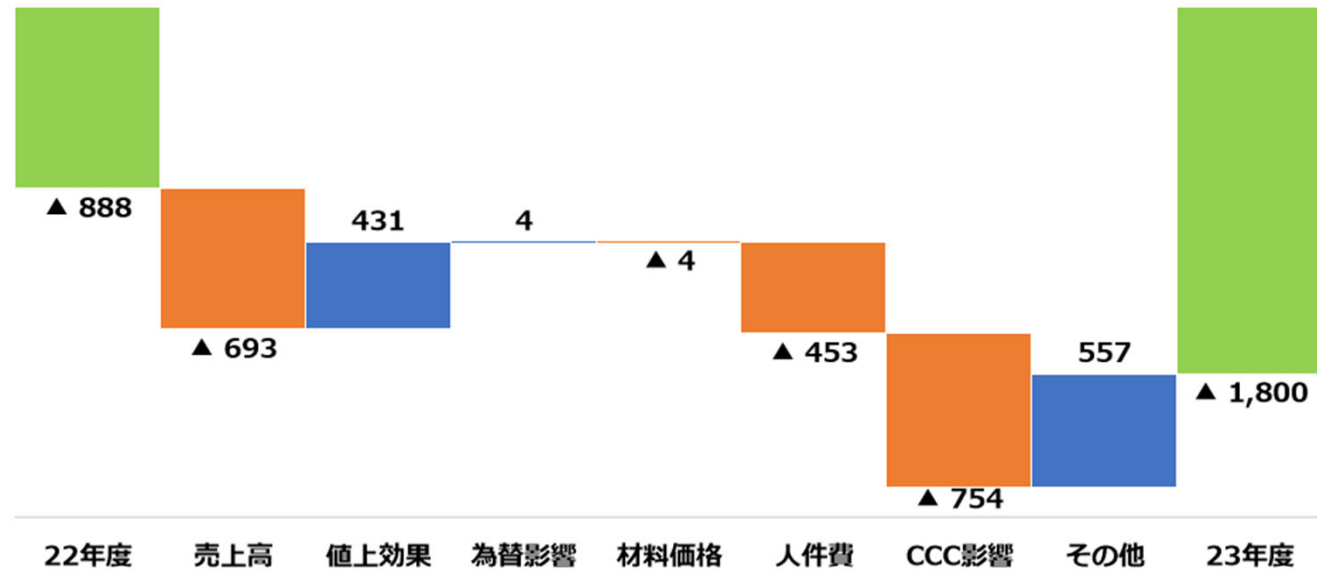
18

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2023年3月期	2024年3月期				5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	前期比	金額	修正率
マテハン	売上高※注1	60,973	30,042	34,958	65,000	6.6%	66,000	▲1.5%
	営業利益	▲ 888	▲ 1,637	▲ 163	▲ 1,800	—	1,000	—
	営業利益率	—	—	—	—	—	1.5%	—

〈営業利益の増減要因〉



〈前期比〉

- ・日本での物流業界向けシステムの販売減少などはあるものの、米州、欧州における金属切屑搬送・クーラント処理装置の販売増加により増収。上期の実績反映および日本の受注減により通期も損失計上を見込む。

〈5/11公表予想比〉

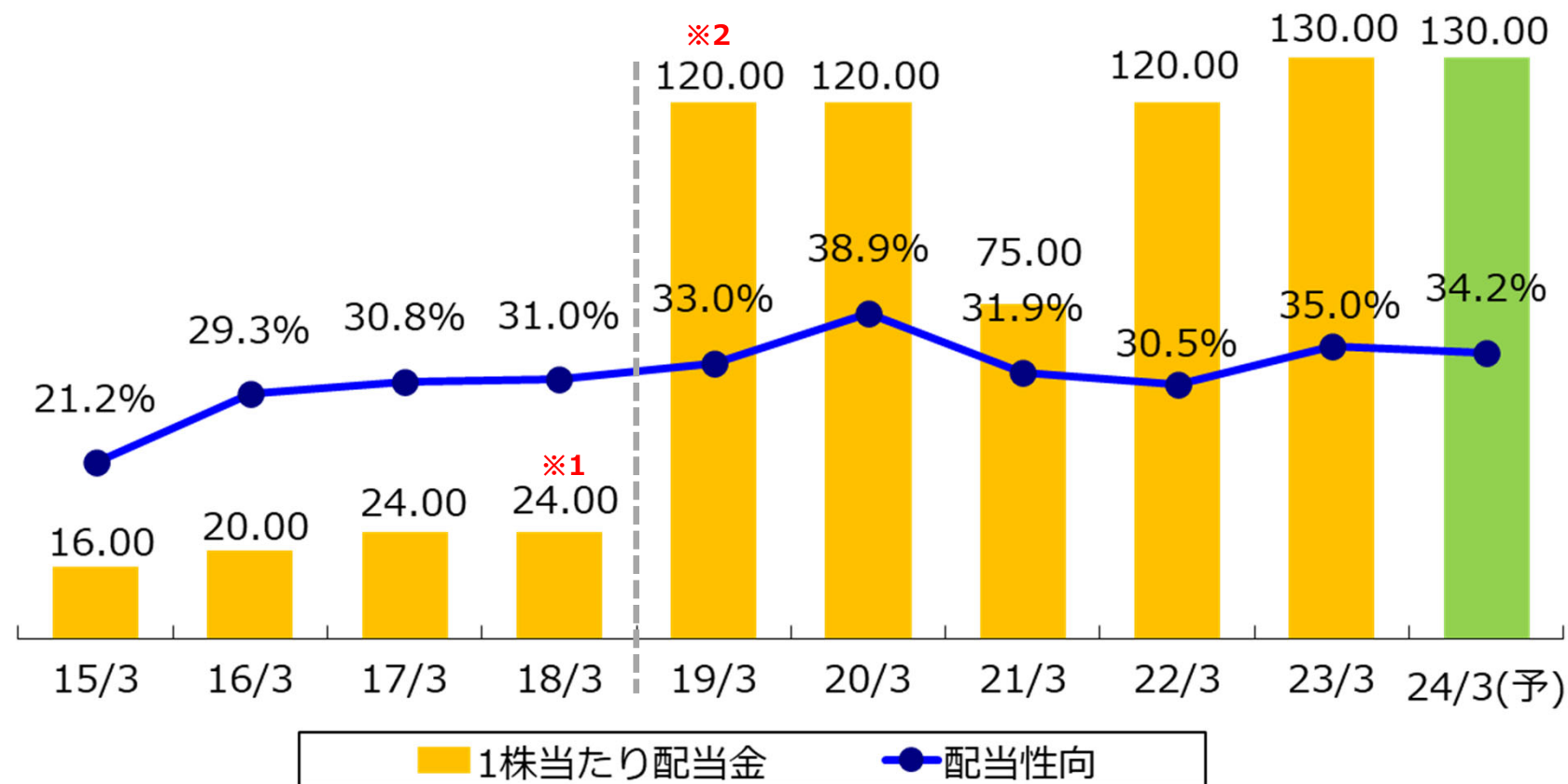
- ・上期実績および今期売上案件の受注状況を鑑み、売上高、営業利益とも下方修正。

■ 配当方針

- ・ 連結業績を反映した配当を基本方針とし、
連結配当性向30%を基準とした利益配分を目指す。

< 1株当たり配当金、連結配当性向の推移 >

(単位：円)



※1 100周年記念配当「2円」を含む ※2 2018年10月1日付で株式併合(5株→1株)を実施

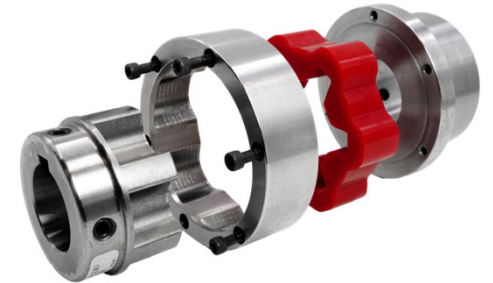
トピックス

- ・ パワトラ事業の拡大戦略
- ・ マテハン事業の取組みについて
- ・ 新事業開発について

パワトラ事業の拡大戦略

1. 北米におけるMC事業について

- ◆ 2022年7月
産業用カップリングの製造・販売会社である
ATR Sales Inc. を買収



2021年度（ATR買収前）の状況

- ・カムクラッチ、パワーロック、カップリングの完成品販売がメイン。
⇒ 製品ラインアップは限られ、シェアも低位。

買収による効果

- ・ 製品ラインアップの多様化、補完
- ・ 現地ノックダウン生産販売への移行、他パワトラ製品とのソリューション提供による販売力強化、シェア向上

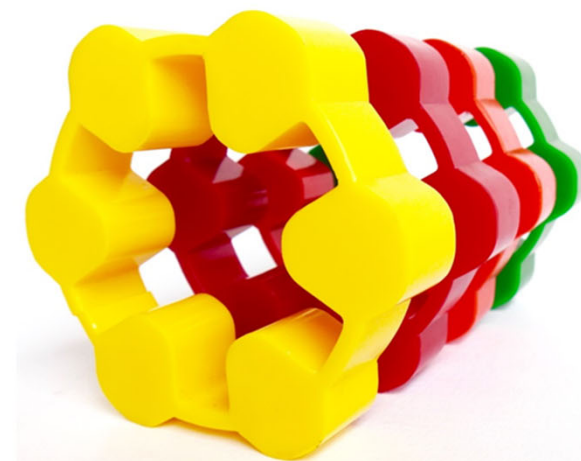
2. ATR社カップリング（ATRA-FLEX）の特徴と強み

<特徴> インサート部が樹脂製

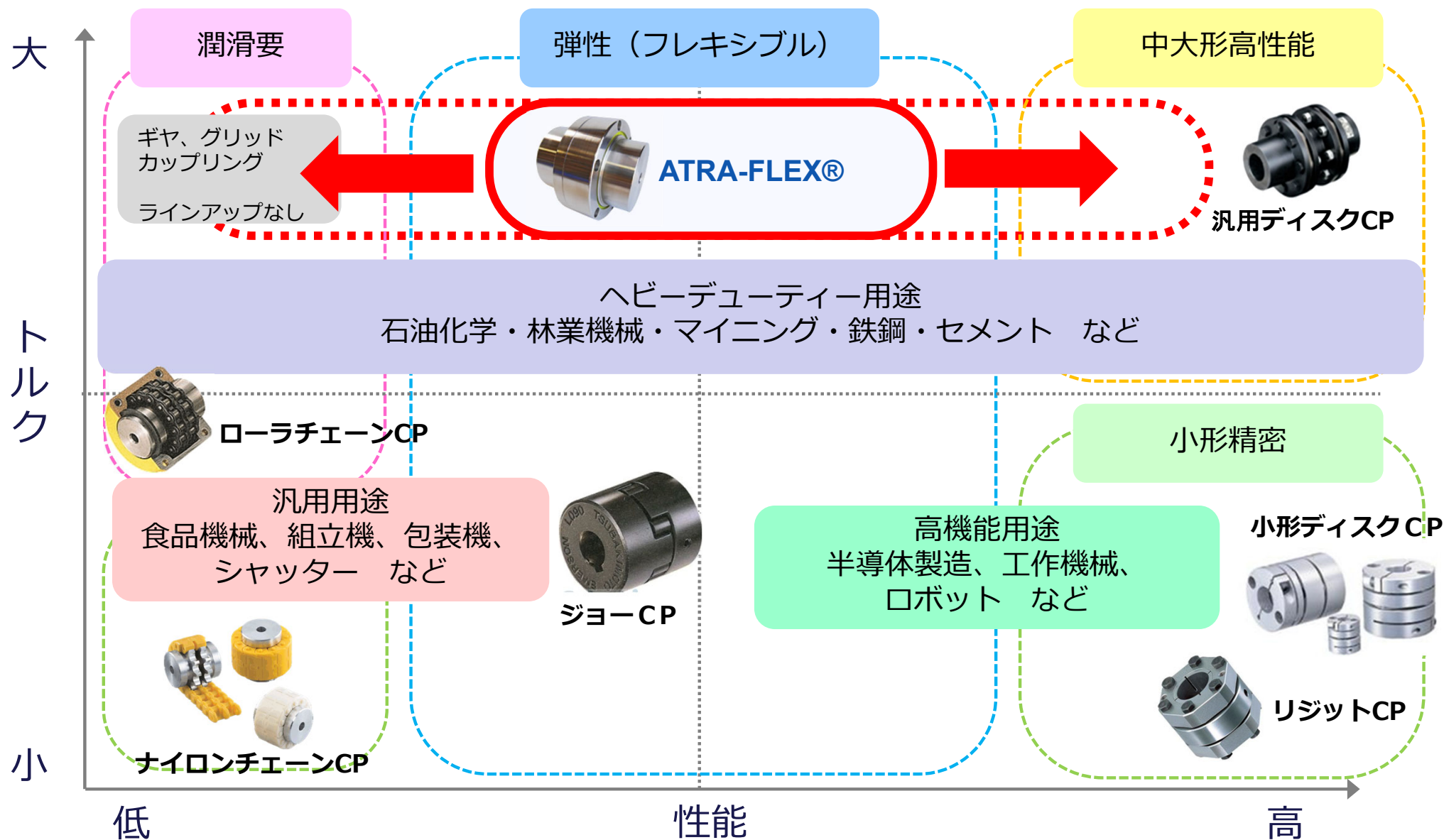
1. 潤滑が不要

2. 金属同士の接触がなく、摩耗・交換はインサート部品のみ

3. 潤滑性と弾性が高く、高性能と広い範囲をカバー



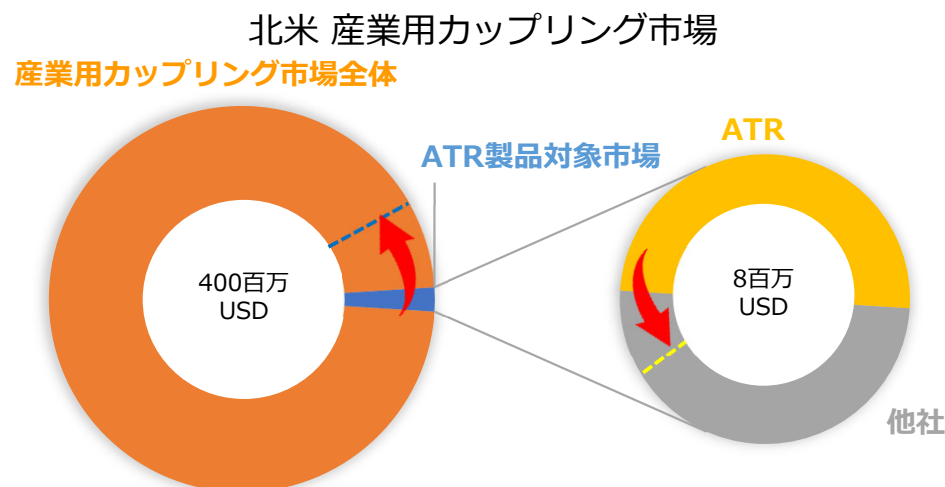
3. 買収による製品ラインアップ補完 〈カップリングの用途と分類〉



4. MC事業の海外戦略 ATR買収効果の発揮

① 米州

- ✓ 北米子会社の販売網を通じた販売先の拡充
(カナダ、メキシコ、中南米)
- ✓ 他パワトラ商品との組み合わせによるソリューション提供



ATRA-FLEX®
Flexible Couplings

ブラジル・チリ・
ペルー
エクアドルなど

- ✓ 現在のジョータイプカップリング市場内でのシェア拡大に加え、ギヤ、グリッドカップリングの取替需要を取り込むことで、対象市場そのものの拡大を図る

② その他エリア



✓ ATRカップリングの強みを生かし、販売エリアを拡大する

<業界・産業>

石油化学、林業機械、マイニングなど

<販売エリア>

オーストラリア、日本、ヨーロッパ

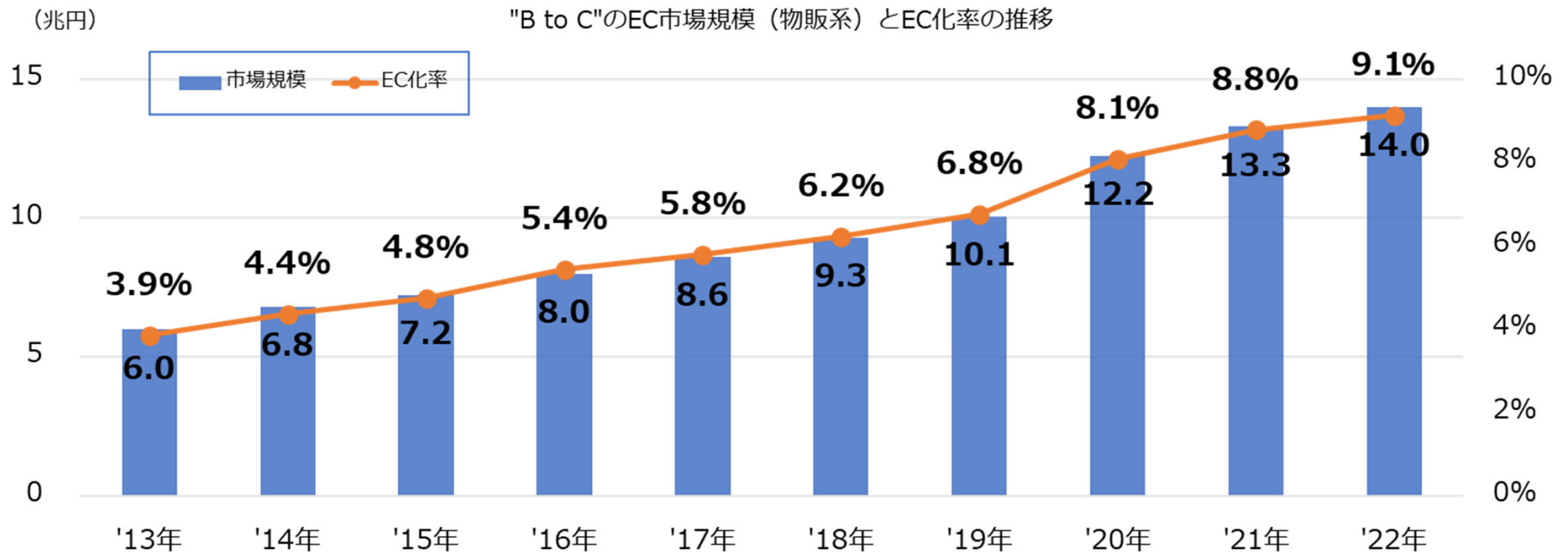


マテハン事業の取組みについて

～ T-AstroXの開発 ～

✓ 開発の背景

- ① **ECマース（EC）市場の伸長**
- ② **労働人口の減少**
- ③ **保管型倉庫から通過型倉庫へ**



✓ 高まる物流業界の自動化ニーズに対応できる商品を開発

物流業界向け商品ラインアップ

行程



① T-AstroXの特長

✓ Goods to Person

- ・ 作業者の手元まで商品を搬送

⇒ 作業者の負担低減、
ミス減少

✓ 自社開発・自社設計

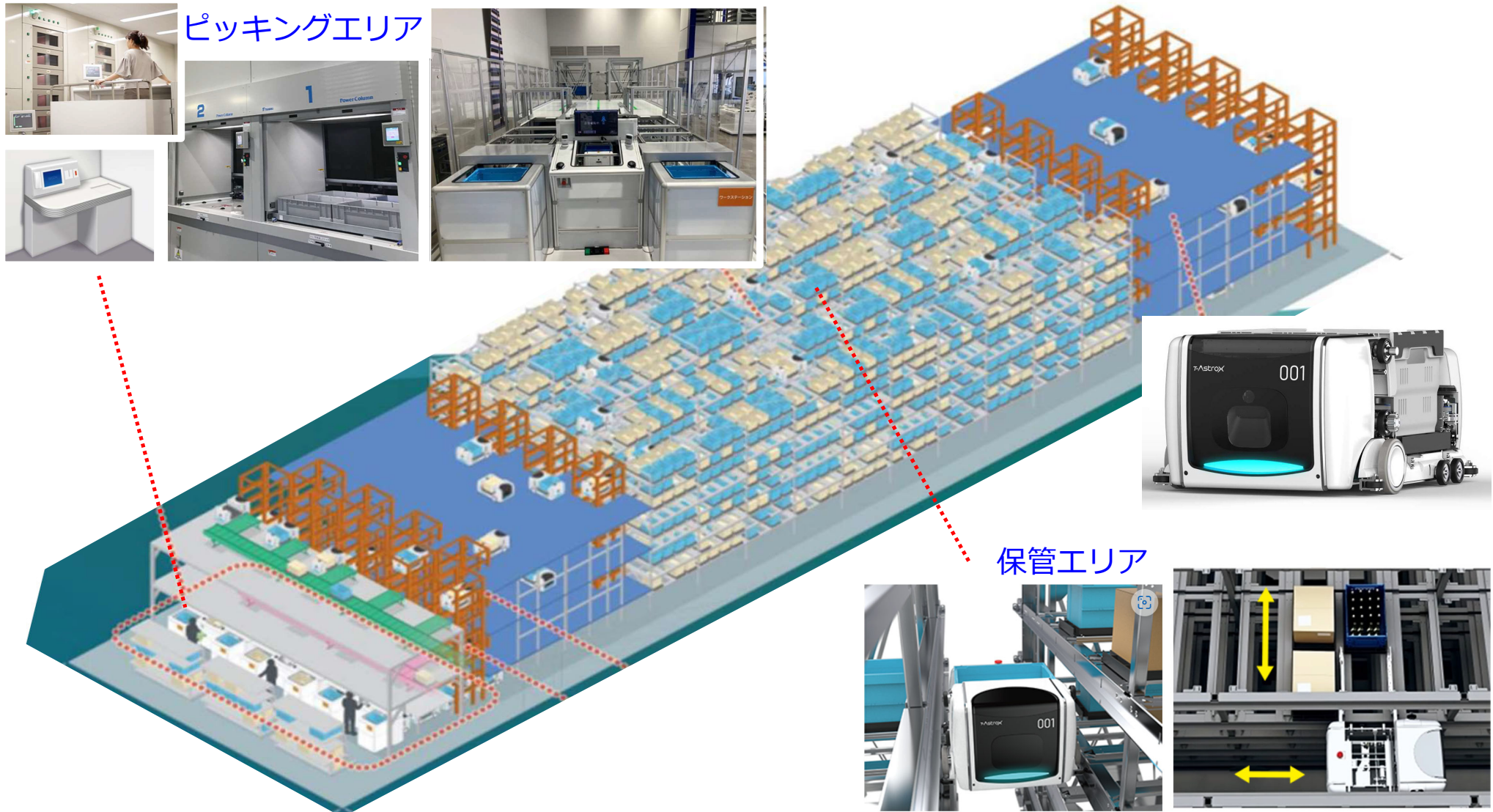
⇒ 最適なステーション構成が可能
ex. Eコマース、工場内物流など

✓ 荷姿を選ばない保管形態、 ダブルリーチ方式採用による高密度保管

⇒ 専用ケースへの移し替えが不要
⇒ 棚の手前と奥に保管が可能



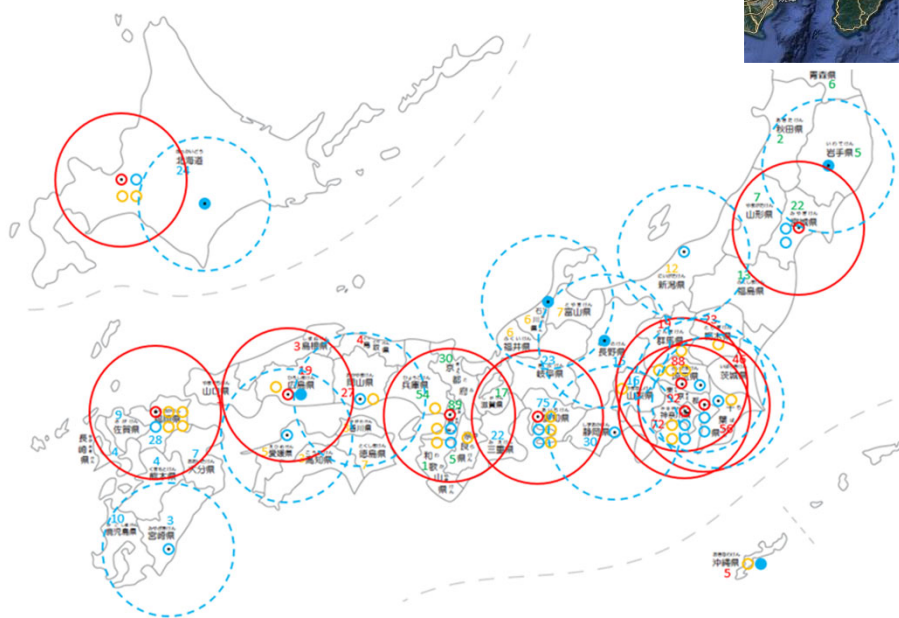
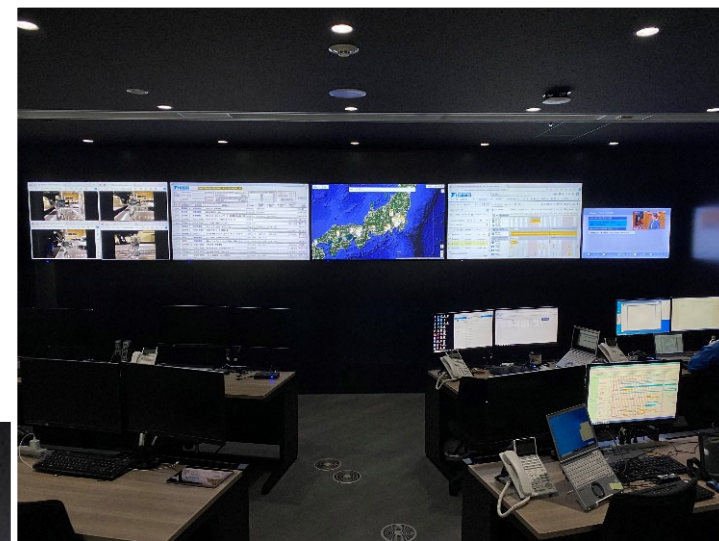
<レイアウト例>



② 万一のトラブルに備えた先進のメンテナンスサポート

✓ コールセンターシステムによる現場管理

✓ 迅速な補修人員派遣と復旧



新東京サービスセンター（SC）開設

- ・ メンテナンスビジネス本部を設置
- ・ コールセンターは2拠点体制



新東京SC

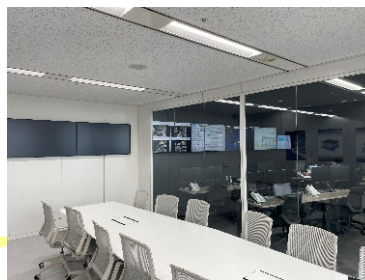
コールセンターシステムで同期



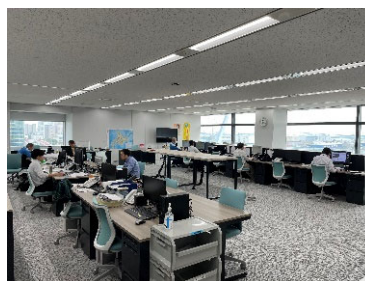
埼玉工場



コールセンター



お客さま相談室



オフィス

高品質なサービスを提供するため、
多様なニーズに対応。

東京サービスセンターはお台場を一望できるスペースに開設。お客さまからのお電話をいただくコールセンターを中心に、お客さまとのミーティングを行う相談室、窓際にリフレッシュスペースを備えた執務室、会議室を備え、さまざまな職務の担当者がお客さまに価値あるアフターサービスをご提供していきます。



新事業開発について

ヒューマンアシスト事業

① 腕特化型 パワーアシストスーツ

- ✓ 軽量で装着しやすく、操作が簡単
- ✓ 腕の負担を軽減
- ✓ 腰サポーターと併用可能



② 車椅子専用段差解消昇降機

スタートアップへの技術提供を通して、
ジップチェーンを活用した製品を開発中。

アグリビジネス

①人工光型植物工場

- ✓ 次世代モデルの植物工場
- ✓ 植物工場運営、営農（業務用レタスの生産）
- ✓ 「食の安全」、「フードロス削減」への貢献

※11月28日（火）起工式

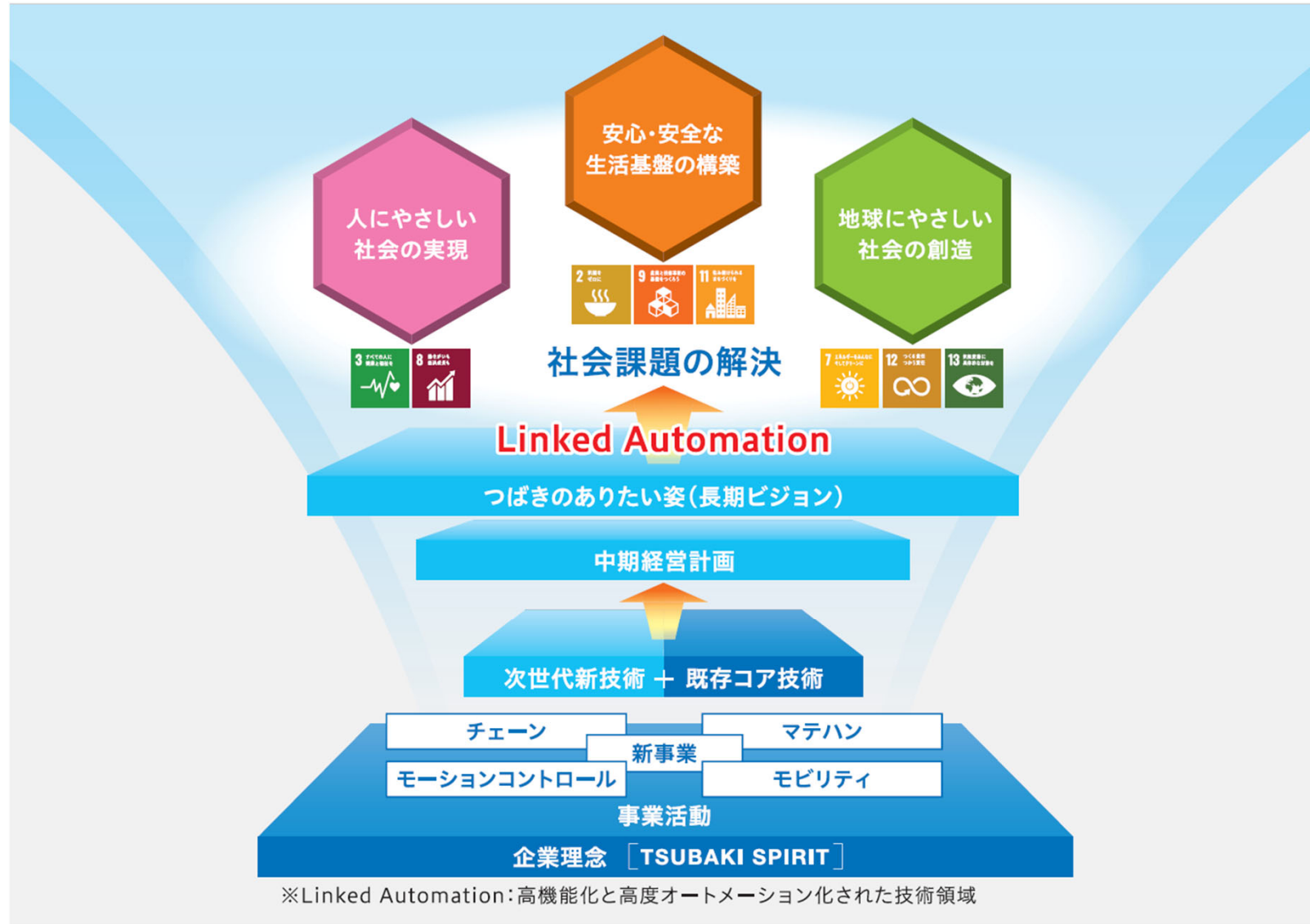


植物工場完成予想図



②閉鎖型人工光植物工場での大豆栽培

国産大豆による大豆肉・機能性食品への
寄与を図る。



本資料に記載している事業計画および業績予想等に関する記述は、資料作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。